

サポート

No. 179

令和3年10月14日発行
県教育庁特別支援教育課指導班

第49回秋田県特別支援学校「学校展」

主管校：県立能代支援学校

9月25日（土）、26日（日）の2日間、イオン能代店を会場に第49回秋田県特別支援学校「学校展」が開催され、両日とも多くの人で賑わいました。

この学校展は、県高等学校長協会特別支援学校部会と県特別支援学校PTA連合会による共催で毎年開催してきましたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止となり、2年ぶりの開催となりました。

コロナ禍での開催を検討した結果、今年度は作業学習製品の販売や喫茶コーナー、体験コーナーなどは設けず、各校の特色ある学習活動の様子をパネルや作品展示、映像で紹介することとしました。幼児児童生徒が来場者と直接やりとりをして、各校の取組を知っていただくことはできませんでしたが、参加した県北4校とかがやきの丘3校の展示ブースでは、学校関係者だけでなく、買い物に来られた地域の方々も足を止め、一つ一つの作品等をじっくりと眺める様子が多く見られました。

学校展を通して、来場者からは「作業学習製品のクオリティに驚いた」「機会があればぜひ購入したい」「地域の特色を生かしながら学習していることが分かった」などの感想が寄せられました。2日間という限られた期間ではありましたが、本県の特別支援学校について、広く一般の方々に知っていただく貴重な機会となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、規模を縮小して行った学校展でしたが、今後もさらに地域に根ざした様々な活動を通し、一層の理解推進を図っていきます。

（能代支援学校 教諭 筒井 仁）



展示会場の様子①

各校のパネルや作品を横並びで展示しました。学校ごとの取組の違いが分かりやすいと好評でした。



展示会場の様子②

たくさんの方が足を止め、展示パネルや作業学習製品等をじっくり眺めていました。



学校紹介映像コーナー

県北4校、かがやきの丘3校の特色ある教育活動をまとめた映像を放映しました。

特別支援学校におけるICT活用推進に係る取組を紹介します。

「保護者と共に取り組む情報モラル教育」

県立支援学校天王みどり学園

7月7日のPTA講演会に約70名の保護者が参加しました。前半は、本校のICT機器を使った学習や家庭でのインターネット利用の実態（本校では児童生徒の7割が日頃からインターネットを利用し、そのうち4割が自分専用の端末を所持等）の紹介と、タブレット型端末を使って実際の学習で使っているアプリの体験を行いました。後半は、「デジタル・シティズンシップ」のCommon Sense Educationを参考に、児童生徒が家庭で情報機器を使用する際の家庭での約束について、講話をしました。保護者からは、「学校の実態を知ることができてよかった」「子どもと端末使用の仕方について話し合いたい」「もっと学校でタブレット型端末を使って学習してほしい」などのアンケート回答が寄せられました。

7月15日の高等部のネット安全教室では、PTA講演会で保護者に紹介した教材資料を実際に使用して情報モラルの学習を実施しました。生徒自身がメディアバランスを意識して夏休みを過ごすことができるよう、日頃の情報機器使用時間を振り返ったり、夏休み中の使用ルールを決めたりすることに取り組みました。

今後は、臨時休業等を想定し、学校と家庭をネットワークで結んだ学習に取り組むためのインターネット環境の把握、タブレット型端末等使用時におけるルールづくり等の準備を進めていく予定です。
(支援学校天王みどり学園 教諭 中村 堅一)



約70名の保護者が参加した講演会



高等部のネット安全教室

(Common Sense Education を参考に作成した講演会資料から抜粋)

子どもたちのメディアバランスを整えるために

- ・時間の約束でなく、行動と結び付ける（やるべきことやその時間をまず決める）
- ・約束を明確にする（いつ、どんなものを使用するのか）
- ・約束が守られなくても子どものせいにならない(守られない理由を確認し、守られたら褒める)
- ・家庭での関わりを大切にする（端末で一緒に遊ぶ、話題の共有）
- ・文化的、感覚的、身体的な本物体験の機会を作る

【参考】坂本旬、芳賀高洋、豊福晋平、今度珠美、林一真（2020）「デジタル・シティズンシップ：コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び」大月書店

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介します。

小・中学校における特別支援教育の充実に向けて 特別支援教育セミナー ～ 大館市立桂城小学校における実践 ～

大館市立桂城小学校、知的障害特別支援学級2年生1名の生活単元学習の実践を紹介します。教科等の学習で身に付けた言葉や数に関する力を使って、相手に伝わるように働き掛けることをねらいとしており、身に付けた力を発揮する場として、通常の学級における交流及び共同学習が設定されています。

○単元名 あつまれことば ～ことばあそびたいかいをしよう～ (本時8/10時間)

○単元計画の工夫

- ・学習で使用する「○(あ等)のつく言葉」をたくさん集めるために友達の協力を得ることでの動機付け
- ・国語科等の学習で行っているクイズやゲームを使った言葉遊び大会の企画、進行の練習、使用するカードやメダルの作成等の準備活動など、他の教科等と関連付けた学習計画
- ・第1回(他の特別支援学級)、第2回(交流学級)と対象を広げ、繰り返す単元構成
- ・言葉遊び大会で友達から集めた言葉を使った学習活動(読み書き、しりとり等)を設定



〈たくさん集まった「ことば」〉

○本時の主な工夫(第2回言葉遊び大会)

- ・「できた」ことが実感できる明確な役割分担(進行役として児童が一人で話す部分と授業者が説明する部分、得点の集計)
- ・簡単な説明で伝わる活動内容(三つの活動の流れ)の掲示
- ・児童の取組を評価する場面を意識した支援(授業者・交流学級担任の見守り、発問、肯定的な言葉掛け)の精選



〈友達の前でゲームの説明〉

○本時の児童の姿

- ・自分のやる事が分かり、友達の前で自信をもって話すこと(ゲームの進行)ができた。友達が楽しんでいる様子を見てとてもうれしそうであり、「○○ちゃんが考えてくれたので楽しかった」「上手に言えたね」という友達の感想を聞き、達成感がさらに高まった様子だった。

見通しをもち、安心して行うことができる活動をベースにしたスモールステップでの課題解決場面の設定、相手に伝わるようにという明確な目的、必然的な場の設定等が、児童の主体的な活動につながっています。また、交流学級の児童にとっても、活動そのものを楽しみながら、ルールを守って仲良く活動する、友達のために考える、ゲームを企画・進行する友達の頑張りを知るという学びの時間になっています。単元設定の参考にしたい実践です。

(北教育事務所鹿角出張所 指導主事 布田 美香子)

事業紹介

特別支援学校就労・職場定着促進事業

二年目を迎えた「特別支援学校就労・職場定着促進事業」の概要を紹介します。

【事業目的】

職場定着支援員による定期的な職場訪問や卒業生と事業所双方への相談支援等により、事業所の障害者理解を深め、職場定着につなげる。また、中学部段階からの職業教育を充実させ、一般就労希望者の増加を図る。

【事業内容】

1 職場定着支援員の配置（県南地区を対象として、大曲支援学校に1名配置）

特別支援学校卒業生の就労先への訪問や事業所の理解促進活動を行っています。離職につながりそうなケースには、各特別支援学校に速やかに情報提供し、手厚い追指導ができるようにしています。

2 職場定着対策会議の開催（推進拠点校：比内支援学校、ゆり支援学校、大曲支援学校）

推進拠点校において年2回、各地区の特別支援学校と関係機関の担当者との意見交換の会を開催しています。

8月5日に比内支援学校で行われた第1回職場定着対策会議では、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、卒業生の就労先の事業所から、職場定着に係る現状と課題について話題提供していただき、特別支援学校の職業教育で必要な指導等について検討しました。



〈関係機関担当者等との意見交換〉

3 「中学部段階からの職業教育」の充実（推進拠点校）

職業教育の充実に向け、中学部で育てたい資質・能力の明確化や進路学習及び作業学習の在り方の見直し等に取り組んでいます。自校の取組について、中学校特別支援学級に積極的に情報提供します。

4 「理解啓発」「実践発表」の機会の充実

10月から県内3地区で開催する職業教育フェアでは、技能競技会（ビルクリーニング、喫茶サービス、縫製）を行い、地域の一般企業等の方々に理解を深めてもらう機会とします。

本事業で得られた成果については、県内の全特別支援学校で共有していきたいと考えています。

おめでとうございます

「令和3年度秋田県学校関係緑化コンクール」受賞校

○学校環境緑化の部

「知事賞」	県立比内支援学校
「県教育委員会教育長賞」	県立ゆり支援学校
「県緑化推進委員会会長賞」	県立比内支援学校かづの校
「県森林組合連合会会長賞」	県立能代支援学校
「県花いっぱい運動の会会長賞」	県立支援学校天王みどり学園
「県山林種苗協同組合理事長賞」	県立比内支援学校たかのす校、県立大曲支援学校

